

少女マンガ「ベルサイユのばら」の受容に関する実証研究
女性・革命・西洋イメージをめぐるコンフリクトの国際比較
東 園子（人間科学研究科 社会環境学）

1. 今回の調査研究の目的

少女マンガ「ベルサイユのばら」に関する文献資料の複写

2. 今回の調査研究の訪問先

東京・国立国会図書館本館、国立子ども図書館（10月4日～10月10日）
対象となる文献が多量だったため、別途大阪市立中央図書館でも複写

3. 対象に「ベルサイユのばら」を選んだ理由

「ベルサイユのばら」：1972年から連載の、池田理代子による少女マンガ
フランス王妃マリー・アントワネットと、男装して軍人を務めるオ
スカルをヒロインにして、フランス革命を描いた物語
後に舞台化・TVアニメ化もされ、社会現象と呼ばれるほどのブームを引き起こした
（少女）マンガという枠を超えて、当時の社会に広くインパクトを与えた
「ベルサイユのばら」が広い人気を得られたのは、当時の社会状況に呼応する要素
があったからではないか
「ベルサイユのばら」のヒットは、日本社会における女性・革命・西洋のイメージ
に影響を与えたのではないか

日本のみならず、アジアやヨーロッパなど諸外国でも人気を得た
海外に輸出され広く受け入れられた日本製ポピュラーカルチャー作品として比
較的初期の事例
諸外国ではどのような文脈で「ベルサイユのばら」が受け入れられたのか
日本での受容のされ方と共通点や相違点はあるのか
日本で作られた「ベルサイユのばら」の女性・革命・西洋イメージは、輸出先の社
会における女性・西洋・革命イメージとどのようなコンフリクトを引き起こしたか

「ベルサイユのばら」ポピュラーカルチャーが受容されるとき、社会にどのような影

響を受けるか / 与えるか、受容される際の社会的背景の相違が
どのような効果をもたらすかを知ることができる

4. 文献資料収集を行った理由

「ベルサイユのばら」 その影響力に比して、本格的な研究はほとんど行われていない
テキスト分析・評論のみで、受容に関する研究は進んでいない
基本的な資料から集める必要がある

5. 本調査研究の方法

池田理代子『ベルサイユのばら大事典』(2002年、集英社)掲載の、マンガ版「ベルサイユ
のばら」に関する記述がある書籍・雑誌記事のリストをもとに資料を探し、複写

6. 本調査研究の成果

国立国会図書館本館、国立子ども図書館、大阪市立中央図書館において、合計 238 件複写

7. 今後の展開

GCOE リサーチ・フォーカス「横断するポピュラーカルチャー」の研究プロジェクト
「ポピュラーカルチャーと社会的コンフリクトの総合的研究」
課題の一つ = ポピュラーカルチャーにおける自己 / 他者イメージの検討
「ベルサイユのばら」は格好の対象
他のメンバーとも連携しながら、共同研究の形で研究を行っていきたい
報告者自身は、日本における「ベルサイユのばら」の受容と女性イメージについて
特に焦点を当てたい

8. 今後の研究計画

当面 収集資料の分類整理を継続
各資料の読者対象、「ベルサイユのばら」が取り上げられた文脈、「ベルサイユの
ばら」の位置づけに注目
後には、日本・フランス・韓国で「ベルサイユのばら」の読者調査を行いたい